



鹿ヶ谷から若王子山上 新島襄の墓・駒ヶ滝の行場から南禅寺へ
東山の山裾を巡り 謡曲「小鍛冶」の鍛冶伝承地 京口「栗田口」へ

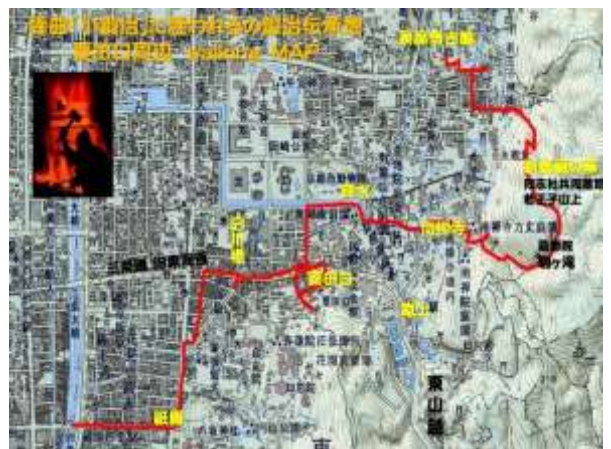
- ◎ 鹿ヶ谷 泉屋博古館の特別展見学とゆったりと時が流れる東山遠望
- ◎ 若王子山上にある同志社創立者新島襄の墓所から南禅寺へ下る
- ◎ 謡曲「小鍛冶」に謡われる鍛冶伝承地 京都七口の一つ栗田口

京都東山の鹿ヶ谷にある泉屋博古館の特別展「住友財団修復助成 30 年記念 文化財よ、永遠に」に出かけるのを機会に以前から気になっていた京都東山山麓 鹿ヶ谷泉屋博古館を起点に若王子山を登り、静寂の中で眠る新島襄の墓にお参り。山中 幻想的な雰囲気漂う駒ヶ滝の行場から南禅寺へ。そして、すぐそば蹴上から三条大橋へと続く旧東海道謡曲「小鍛冶」の古代鍛冶の伝承地 栗田口を訪ねました。

京都東山山麓 鹿ヶ谷泉屋博古館を起点に若王子山を登り、静寂の中で眠る新島襄の墓にお参り。山中幻想的な雰囲気漂う駒ヶ滝の行場から南禅寺へ下る山歩き。

そして、南禅寺のすぐ南 東山越の蹴上から京町への坂道の三条通沿いの京口「栗田口」。かつてはこの京口に数多くの刀鍛冶などが住まいする鍛冶町で、名刀匠三条宗近が信仰する荷明神の化身子狐(童子)を相槌にして、名刀「小狐丸」を鍛え上げたという謡曲「小鍛冶」の舞台。

稲荷信仰と鍛冶信仰とが合体して生まれた伝承といわれる。この東山越「栗田口」に古代の鍛冶伝承の痕跡を訪ねました。



良く知る界隈ですが、知っているようで知らなかった若王子山そして京口「栗田口」の初秋京都東山の山裾 Walk です快晴に恵まれ、久しぶりの初秋京都のぶらぶら歩きをまた一つ新しい道と発見 うれしい初秋京都東山山麓歩きが出来ました。

- ◎ なぜ 京栗田口の刀鍛冶たちが稲荷神綱なのか？ この不思議に今回東山を歩いていて ふと気が付きました
特に東山から稲荷山へと続く山並が東山越の峠道を挟んで京町と山科に分ける。



そして、この京口栗田口にも山科にもこの「小鍛冶の伝承」が残る。単に地域が近いからだと簡単に思っていたが、この東山山麓は古代の鉄資源帯。この東山の山並の中数々の不思議や行場がある。今風にいえばパワースポット。山道を歩いて、ところどころに見る鉄分を含んだ赤い土。そして 外から見れば穏やかな山並も中に入れば、厳しい山肌を見せつける谷筋。鉱物資源帯が見せる不思議の山 それが稲荷信仰と鍛冶伝説が合体した伝承に・・・・。そんな中で生まれた鍛冶伝承。小鍛冶の伝承の中には東山・稲荷山の赤い土を使って鞆・鍛冶炉を築くと。この山の赤土が鍛冶には必要であり、それが刀鍛冶たちの稲荷信仰につながったのかもしれない。



◎ 久しぶりに訪れた博古館 うれしい仏像観賞や中庭から眺める初秋の東山大文字火床の遠望。

◎ 山の山裾 若王子山の山道のあちこちで見かけた古代の鉄資源の山の痕跡

鉄含有の赤い土。この東山から稲荷山周辺の稲荷明神・鍛冶伝承のルーツかも。また、念願の新島襄の墓参りもでき、幻想的な雰囲気の中に入った駒ヶ滝の行場にてあえた南禅寺へ下る道。



◎ 良く知る栗田口ですが、初めて鍛冶伝承の地としてその痕跡を楽しみに歩いた「栗田口」

具体的な痕跡は見られませんが、鍛冶町の名前そして現代風に整備され、地域の人たちによって今も守られている三条宗近の鍛冶伝承を伝える鍛冶神社・合槌神社が存在。

何よりも鍛冶町の名前が残し、古代からの多くの人が行き来し、繁栄した旧東海道の雰囲気が残る狭い街道道。色タイメージが膨らんでうれしい。

それに、今も街の中心として鍛冶町をみおろす丘にある「栗田神社」。出雲神・鍛冶神 素盞鳴尊、大己貴命が御祭神といい、祇園祭の主役長刀鉾の剣か小鍛冶伝承の三条宗近奉納の剣であることなども含めて、この栗田口が鍛冶町だったことを今も連綿として受け継いでいると感じた街歩きでした。



京都栗田口に伝わる三条宗近の鍛冶伝承

謡曲「小鍛冶」の舞台として広く知られる京都栗田口 三条宗近の名刀「小狐丸」作刀伝承 京都三条栗田口栗田鍛冶町神社

夢のお告げを受けた一条天皇(980~1011)の命により、勅使の橘道成は、刀匠として名高い三條小鍛冶宗近のもとを訪れ、劔を打つよう命じます。

宗近は、自分と同様の力を持った相槌を打つ者がおらず、打ち切れないと訴えますが、聞き入れられず、進退きわまった宗近は氏神の稲荷明神に助けを求めて参詣。そこで不思議な童子に声をかけられ、少年は宗近を励まし、相槌を勤めようと約束して稲荷山に消えていきました。

家に帰った宗近が身支度をすまして鍛冶壇に上がり、礼拝していると稲荷明神のご神体が狐の精霊の姿で現れ、「相槌を勤める」と告げる。先ほどの少年は、稲荷明神の化身だった。

明神の相槌を得た宗近は、無事に劔を鍛え上げました。

こうして表には「小鍛冶宗近」の銘、裏にはご神体が弟子を勤めた証の「小狐」の銘という、ふたつの銘が刻まれた名劔「小狐丸」が出来上がった。

明神は小狐丸を勅使に捧げた後、雲に乗って稲荷の峯に帰っていきました。

- ◎ 製鉄に従事するものを大鍛冶というのに対し、刀鍛冶を小鍛冶と称していました。京都三条通の栗田口は古くからの刀鍛冶の居住地。稲荷神社の祭神は素戔鳴尊、大己貴命で、製鉄・鍛冶と関係深い神、刀工たちの氏神として信仰されていたという。また、鍛冶炉の竈には山科稲荷山の土を用いていたとの伝承もある。
- ◎ 宗近は実在の平安中期の刀匠ですが、生没年不詳ですが、永延(987-989)の頃京都三条に住したと伝え、小狐丸をはじめ幾多の刀劔を造ったという。現存するものとして三日月宗近などがあります。また、祇園祭の長刀鉾の長刀は宗近が奉納したものとされています。作刀にこのころの年紀のあるものは皆無であり、その他の確証もなく、ほとんど伝説的に扱われている。代表作として伝えられる国宝「三日月宗近」があります。

謡曲「小鍛冶」の舞台京都栗田口に残る鍛冶伝承地の痕跡

- ◎ 三条小鍛冶宗近之古跡の石碑 1917年建立
東山区栗田口鍛冶町(仏光寺本廟内)
拾遺都名所図会によると、佛光寺本廟境内に刀劔を鑄るときに用いた井水があったという
- ◎ 合槌稲荷神社 創建年代不明
栗田口中ノ町、栗田神社の向かいの三条通りに面した場所にある。三条通り沿いの鳥居から隣接する民家の外壁に沿って細い参道が続いている。境内には正一位合槌稲荷大明神を祀る祠があり、この祠は平安時代の刀匠、三条小鍛冶宗近が稲荷大社に祈願し、狐とともに宝劔小狐丸を打ちあげたという逸話の舞台ともいう。
- ◎ 鍛冶神社 栗田神社参道中腹東側に位置する末社
祭神は鍛冶神天目一箇神と刀工三条小鍛冶宗近・栗田口藤四郎吉光。刀鍛冶発祥の地とも呼ばれる栗田口の数多くの刀工を顕彰するため創建されたという刃物、鍛冶及び勝運、開運の社
- ◎ 栗田神社
清和天皇貞観十八(876)年清和天皇の勅により、全国の諸神に「国家と民の安全を祈願」。勅使従五位上出羽守藤原興世が感神院祇園社(今の八坂神社)に祈願。満願の夜、興世の枕元に一人の老翁が立ち、「汝すぐ天皇に伝えよ。叡慮を痛められること天に通じたる。我を祀れば、必ず国家と民は安全なり。」と告げられた。老翁は「我は大己貴神なり。祇園の東北に清き処あり。其の地は昔、牛頭天王(ゴズテンノウ=スサノオノミコト)に縁ある地である。其処に我を祀れ。」と言い消えた。勅命により直ちに此の地に社を建てて御神霊をお祀りしたのが始まりであるという。また一説には、孝昭天皇の分かれである栗田氏が此の地を治めていた時に氏神として当社を創建とも云われる。
八坂神社と同じ素戔鳴尊、大己貴命を祭神とするところから感神院新宮とよばれ、八坂神社とも関係が深い。旧社名は、感神院新宮・栗田天王宮。明治になり栗田神社と改称された。詳細不明なるも、そのルーツに鍛冶伝承地との結びつきが見える。
京の七口の一つ栗田口に鎮座し、この地の氏神様として、古くから旅立ち守護の神として崇敬を集め、現在でも旅行に際し絵馬を奉納したり、お守りを買い求める人がいる。境内参道脇には鍛冶神社 直ぐ北には合槌神社があり、いずれも栗田神社の末社。詳細不明
- ◎ 栗田口鍛冶町 この地に数多くの刀工・鍛冶屋敷があったことを町名に残している



山科 花山稲荷神社に伝わる三条宗近の鍛冶伝承

山科 花山稲荷神社 「稲荷塚」稲荷信仰と結びついた刀鍛冶の伝説
 謡曲「小鍛冶」 名刀工三条小鍛冶宗近の相伝は稲荷大明神





三條小鍛冶が作ったと伝承される鍛冶場伝承地
 達光宮が祭られている「稲荷塚」

本殿 右側の赤い玉垣の中にあり、「稲荷塚」の石碑と元禄十二年(1699年)の銘のある石灯籠の基部が残る。また、この辺りは鎌倉の跡も残る中臣造の北端にあたり、弥生時代後期の内堀と言われる。達光宮の御祭神などと考え合わせると、稲荷大神を勧請する前から鍛冶(製鉄)の神として祭られていたようにも思われます 花山稲荷神社ホームページより

京都市地下鉄東西線嵯峨辻駅地下通路 山科花山稲荷神社 名刀「小狐丸」の伝説
 謡「小鍛冶」の伝説として ほかの地にも伝承されている

山科花山稲荷に伝わる名刀「小狐丸」の伝承

ある夜、一条天皇(980~1011年)が不思議な夢を見られて、当時名工として知られた三条の小鍛冶宗近に御剣を打つことを命ずる為に、構造成を勅使として遣わされました。宗近は宣言を承りはしたものの、一人では御剣を打つことが出来ません。相伝に優れた者が居なくて困った宗近は、神にすがりより仕方ないと思い、氏神である稲荷明神に祈願のために出かけます。

すると一人の童子が現れて、不思議にもその童子は既に勅命を知っており、「君の恵みによって御剣は、必ず成就するであろう」と安心させます。そして、和漢の銘剣の威徳や故事を述べ、特に日本武尊の草薙剣の物語を詳しく語って聞かせ、「通力の身を変じて力を添えよう」と言って、稲荷山に消えていきます。



宗近は屋敷に戻って、しめ縄を張った壇をしつらえ、童子の教えのままに剣を打つ支度を調べて、祝詞を唱えて待ち構えていると、稲荷明神からの使いの狐が現れて、相伝となって御剣を打つのを手伝ってくれたのでした。やがて御剣は完成し、表に小鍛冶宗近、裏には小狐と銘を入れ、勅使に捧げると、狐は再び稲荷山に帰っていく。



粟田口の刀匠三条宗近の伝承は稲荷信仰と鍛冶伝説が合体して生まれたといわれている。

小鍛冶の伝承の中には 東山・稲荷山の赤い土を使って鞆・鍛冶炉を築いたと伝承されている。

確証があるわけではないが、この東山山麓は古代の鉄資源帯であり、またこの東山の山並の中数々の不思議や行場が数多くある。今風にいえばパワースポット。外から見れば穏やかな山並も山中は厳しい山肌を見せつける鉱物資源帯が見せる不思議の山。それが稲荷山への稲荷明神降臨・稲荷信へ

また、山道を歩いて見かける鉄分を含んだ赤い土。この赤土が鍛冶炉を築くのには必要と伝承されている。

赤土のある稲荷山が刀鍛冶たちの稲荷信仰につながったのかもしれない。 Mutsu Nakanishi 私見

Photo Album Photo 抜粋 旧東海道京口 栗田口に鍛冶伝承の痕跡を訪ねる

◆ 鹿ヶ谷 泉屋博古館 & 若王子山登り口 若王子神社周辺





◆ 若王子山から駒ヶ滝の谷筋を南禅寺へ 【1】 駒ヶ滝の行場周辺



◆ 若王子山から駒ヶ滝の谷筋を南禅寺へ 【2】 南禅寺周辺で



◆ 南禅寺の南 蹴上から京町への坂道三条通の栗田口へ



◆ 三条通の栗田口 刀匠三条宗近の鍛冶伝承の痕跡を訪ねる



謡曲「小鍛冶」の舞台京都栗田口に残る鍛冶伝承地の痕跡

- ◎ 三条小鍛冶宗近之古跡の石碑 1917年建立
東山区栗田口鍛冶町(仏光寺本願内)
拾遺都名所図会によると、佛光寺本願境内に刀剣を鍛るときに用いた井水があったという
- ◎ 合槌稲荷神社 創建年代不明
栗田口中ノ町、栗田神社の向かいの三条通りに面した場所にある。
三条通り沿いの鳥居から隣接する民家の外壁に沿って細い参道が続いている。
境内には正一位合槌稲荷大明神を祀る祠があり、この祠は平安時代の刀匠、三条小鍛冶宗近が稲荷大社に祈願し、狐とともに宝剣小狐丸を打ちあげたという逸話の舞台ともいう。
- ◎ 鍛冶神社 栗田神社の参道入口石鳥居脇にある栗田神社の末社
祭神は天目一箇神 三条小鍛冶宗近・栗田口藤四郎吉光を祀る鍛冶の神様。
この栗田口の数多くの刀工たちを顕彰するために創建されたというが、定かでない。
- ◎ 栗田神社
清和天皇貞観十八(876)年清和天皇の勅により、全国の諸神に「国家と民の安全を祈願」。その際、勅使従五位上出羽守藤原興世が、感神院祇園社(今の八坂神社)に祈願。その満願の夜、興世の枕元に一人の老翁が立ち、「汝すぐ天皇に伝えよ。飢慮を痛められること天に通じたる。我を祀れば、必ず国家と民は安全なり。」と告げられた。老翁は「我は大己貴神なり。祇園の東北に清き処あり。其の地は昔、牛頭天王(ゴズテンノウ・スサノオノミコト)に縁ある地である。其処に我を祀れ。」と言われて消えられました。勅命により直ちに此の地に社を建てて御神霊をお祀りしたのが始まりであるという。また一説には、孝昭天皇の分かれである栗田氏が此の地を治めていた時に氏神として当社を創建とも云われる。
八坂神社と同じカミ神・出雲神 素戔鳴尊、大己貴命を祭神とするところから感神院新宮とよばれ、八坂神社とも関係が深い。旧社名は、感神院新宮・栗田天王宮。明治になり栗田神社と改称された。詳細不明なるも、そのルーツに鍛冶伝承地との結びつきが見える。
京の七口の一つ栗田口に鎮座し、この地の氏神様として、古くから旅立ち守護の神として崇敬を集め、現在でも旅行に際し絵馬を奉納したり、お守りを買求める人がいる。
境内には鍛冶神社 そして直ぐ向かいの街中に 合槌神社があり、いずれも栗田神社の末社。
- ◎ 栗田口鍛冶町 この地に数多くの刀工・鍛冶屋敷があったことを今の町名に残している



三条通の栗田口 刀匠三条宗近の鍛冶伝承の痕跡【1】 栗田神社



◎ 栗田神社

清和天皇貞観十八(876)年清和天皇の勅により、全国の諸神に「国家と民の安全を祈願」。その際 勅使従五位上出羽守藤原興世が、感神院祇園社(今の八坂神社)に祈願。その満願の夜、興世の枕元に一人の老翁が立ち、「汝すぐ天皇に伝えよ。叡慮を痛められること天に通じたる。我を祀れば、必ず国家と民は安全なり。」と告げられた。老翁は「我は大己貴神なり。祇園の東北に清き処あり。其の地は昔、牛頭天王(ゴズテンノウ=スサノオノミコト)に縁ある地である。其処に我を祀れ。」と言われて消えられました。勅命により直ちに此の地に社を建てて御神霊をお祀りしたのが始まりであるという。。また一説には、孝昭天皇の分かれである栗田氏が此の地を治めていた時に氏神として当社を創建とも云われる。

八坂神社と同じ鍛冶神・出雲神 素盞鳴尊、大己貴命を祭神とするところから感神院新宮とよばれ、八坂神社とも関係が深い。旧社名は、感神院新宮・栗田天王宮。明治になり栗田神社と改称された。詳細不明なるも、そのルーツに鍛冶伝承地との結びつきが見える。

今も街の中心として鍛冶町をみおろす丘にある「栗田神社」。出雲神・鍛冶神 素盞鳴尊、大己貴命が御祭神といい、祇園祭の主役長刀鉾の剣が「鍛冶伝承の三条宗近奉納の剣であることや摂社に鍛冶神社・合槌稲荷神社があるなど、詳細はよくわからないが鍛冶町栗田口の中心として鍛冶と強く結びつき、今も連綿としてそれを受け継いでいる



三条通の栗田口 刀匠三条宗近の鍛冶伝承の痕跡【2】 鍛冶神社 創建は定かでない



栗田神社石鳥居前を東西に走る旧能藤街道沿いに栗田口鍛冶町の町名が今も残る



三条通の栗田口 刀匠三条宗近の鍛冶伝承の痕跡【5】

三条通 栗田口の西端 神宮道・白川橋周辺





- ◎鹿ヶ谷 泉屋博古館の特別展見学とゆったりと時が流れる東山遠望
- ◎若王子山上にある同志社創立者新島襄の墓所から南禅寺へ下る
- ◎謡曲「小鍛冶」に謡われる鍛冶伝承地 京都七口の一つ栗田口

京都東山の鹿ヶ谷にある泉屋博古館に出かけるのを機会に以前から気になっていた京都東山山麓 鹿ヶ谷泉屋博古館を起点に若王子山を登り、静寂の中で眠る新島襄の墓にお参り。山中 幻想的な雲田気漂う駒ヶ滝の行場から南禅寺へ。
そして、今日一番の目的 謡曲「小鍛冶」に謡われた鍛冶伝承の地 東山越京口の栗田口を訪ねる古代の鍛冶伝承地の痕跡walk

快晴に恵まれ、久しぶりの初秋京都のぶらぶら歩きを楽しめました。
良く知る東山界限ですが、知っているようで知らなかった界限
また一つ新しい道と発見 うれしい初秋京都東山山麓歩きが出来ました。
久しぶりに訪れた博古館と好きな十二神将に出会えるなど久しぶりの仏像観賞
そして、知っているようで知らなかった東山の山裾 若王子山
念願の新島襄の墓参り、幻想的な駒ヶ滝の行場 そして、山道のあちこちで見かけた鉄含有の赤い土。古代の鉄資源の山の痕跡 稲荷明神・鍛冶伝承のルーツかも
初めて鍛冶伝承の地としてその痕跡を楽しみに歩いた「栗田口」
具体的な痕跡は見られませんが、鍛冶町の名前そして現代的になってはいるが、鍛冶神社・合槌神社が存在。何よりも古代からの多くの人が行行き来し、繁栄した旧東海道の雲田気が残る街並みも色々イメージが膨らんでうれしい。
今も街の中心に「栗田神社」。出雲神・鍛冶神 素盞鳴尊、大己貴命が御祭神。
祇園祭の主役長刀鉾の鉦が小鍛冶伝承の三条宗近奉納の鉦であることなども含め
この栗田口が鍛冶町だったことを今も連綿として受け継いでいると感じた街歩きでした。

鹿ヶ谷から若王子山上 新島襄の墓・駒ヶ滝の行場から南禅寺へ
東山の山裾を巡り、謡曲「小鍛冶」に謡われる鍛冶伝承地
京都七口の一つ 三条通 栗田口を訪ねました 2019.10.9.

参考：和鉄の道・Iron road 掲載 関連主要記事



◆ 古代の鍛冶伝承・稲荷伝承の残る京都山科に坂上田村麻呂の墓を訪ねる

●坂上田村麻呂墓 ●西野山山麓の鍛冶伝承地 花山稲荷神社 ●稲荷伝承の折上稲荷

<https://www.infokkna.com/ironroad/2016htm/iron12/1607nishinoyama00.htm>

◆ 京都山科に古代のたたら跡 如意ヶ岳南製鉄遺跡群を訪ねる 2013.8.26

<https://www.infokkna.com/ironroad/2013htm/iron9/1309yamashina00.htm>

◆ 稲荷山降臨伝承の三ヶ峰から伏見稲荷大社へ 2016.9.13.

<https://www.infokkna.com/ironroad/2016htm/iron12/1610inariyama00.htm>

◎ 鉄の風景・鉄のモニュメント京都 史跡 琵琶湖疎水 蹴上 2015.11.7.

「日本最初の発電所 蹴上発電所 水圧鉄管」と「インクライン」

<http://www.infokkna.com/ironroad/2015htm/iron11/1512keage00.htm>

◎ 京都 祇園祭 2011 2011.7.16.夕 宵山 & 2011.7.17. 山鉾巡行

<https://www.infokkna.com/ironroad/2011htm/walk8/1108gion00.htm>

